

# 水稻品種「きぬむすめ」の特性と栽培のポイント

## 中生の良食味品種

### 研究開発の背景

- ◇「きぬむすめ」は高品質・良食味品種として2009年に和歌山県水稻奨励品種に採用された。
- ◇西日本では採用が増えてきているが、太平洋側での栽培試験はされておらず、栽培特性を解明することが望まれていた。
- ◇現地においても、高品質・良食味品種の導入と栽培指導のため、品種特性の把握や栽培特性についての指標が望まれていた。

### 研究成果の内容

#### 高温登熟でも1等米比率が高い品種

- 品種特性** 同熟期の「日本晴」と比べ、収量性は同等、玄米外観品質・食味に優れる。
- 移植時期** 極端な早植えは避けて6月上旬以降に移植する。
- 施肥量** 窒素施肥量は10kg/10a程度とする。
- 追肥時期** 1回目の追肥は出穂25日前（幼穂が確認できるころ）、2回目は15日前に行う。
- 刈り取り時期** 適期は成熟期を基準とし、その前後4日間。
- 栽培マニュアルを作成（2014年）農業試験場HPで公開中**  
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/001/documents/20140319095257.pdf>



### 産地の状況

- 栽培面積は年々拡大中**  
栽培面積は年々拡大し、2017年は748ha（推定）。
- 和歌山県産米のレベルアップ**  
玄米外観品質・食味に劣る「日本晴」、高温による白未熟粒の発生が多い「キヌヒカリ」からの転換で、県産米の1等米比率の向上に貢献。



### 期待される効果

- ☆高品質・安定生産による、年次変動の緩和。
- ☆和歌山県産米の評価向上。
- ☆1等米比率の向上により、販売価格の向上。